

BOOK

ご利用ください!



うない文庫 図書コーナー

うない研究者支援センターでは、情報提供の一環として、「図書コーナー」をセンター内に設置しています。また、附属図書館2階情報ラウンジにおいて、「生き方の多様性を応援する“うない文庫”」を常設しています。貸出や所蔵リストについて、詳しくは、当センターWEBサイトからご覧いただけます。

わたしの
おすすめ本

『ママと子どもとお金の話』 *うだひろえ(著) *泉正人 新屋真摘(監修)
*2012年 サンクチュアリ出版
●総務課 安座間 喜達

当時、妻が妊娠していたとき、知り合いの勧めによってうない文庫の存在を知ってこの本を借りました。タイトルは『ママと子どもとお金の話』となっていますが、ママに限ったお話という訳ではありません。当たり前ですが、ママの産前・産後の手続きや子育てに関するプランなどはパパの協力なしでは成り立ちません。この本は、そんなタイトルどおりの内容を、作者の実体験をベースに夫婦の日常や専門家のアドバイスを分かりやすくマンガで描いています。ぜひ、パパ・ママの両方に読んでもらいたい一冊です。ちなみに、私は返却したあとすぐに自費で購入しました。



「国際学会派遣・英文校閲費用助成」のお知らせ

本学では、女性研究者がその能力を最大限に発揮できるための環境整備及びキャリアアップ支援に取り組んでいます。現在、学術論文への投稿や学会発表の英文校閲に係る費用の助成及び国際学会等に参加するために必要な旅費の助成対象者を募集しています。詳しくは、当センター並びに男女共同参画室Webサイトをご覧ください。

申請資格

それぞれの事業において、次の項目すべてに該当するもの。

【英文校閲】

- ①本学に在職する女性研究者(常勤教員、特任教員及びポスドク研究員。)
- ②平成26年4月1日～平成27年2月28日の間に、学術雑誌への投稿用論文の英文校閲を行い、納品が完了するもの。ただし、申請者本人が筆頭著者及びコレスポンディング・オーサーとして発表する場合に限る。

【国際学会派遣】

- ①本学に在職する女性研究者(常勤教員、特任教員及びポスドク研究員。教授を除く。)
- ②平成26年10月1日～平成27年3月31日までの間に、国外で開催される国際学会等に参加又は本人が自ら研究成果発表を行うもの。ただし、平成27年3月31日までに帰国するものに限る。

応募締切

- 【英文校閲】 平成27年1月15日(木)必着
- 【国際学会派遣】 平成26年11月28日(金)必着

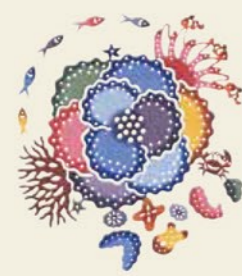
編集後記

北澤宏一先生ご逝去の知らせはあまりにも突然で、私たちスタッフ一同驚きと悲しみを深くしております。1頁にもありますように、北澤先生には第4回男女共同参画トップセミナーの講師として本学において頂きました。お忙しい中、遠い沖縄までお越し下さったのは、本学における男女共同参画推進事業に大きな期待を寄せておられたからこそと思います。先生からのエールを心に留め置き、今後も本事業のため取り組んで参ります。北澤先生に深く感謝致しますとともに、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

国立大学法人 琉球大学 うない研究者支援センター

University of the Ryukyus
Unai Center for Researcher Support and Development

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 大学本部1階
TEL:098-895-8675 FAX:098-895-8732
E-mail:gender@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
URL:http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/unai/



うない通信

国立大学法人 琉球大学 うない研究者支援センター ニュースレター Vol.7 2014年10月発行

第4回 男女共同参画トップセミナーを開催しました

平成26年6月24日(火)、大学本部第一会議室において、学長をはじめ、理事、部局長及び事務長など約60人が参加し、第4回男女共同参画トップセミナーを開催しました。本セミナーは、大学運営に関わる管理職員等を対象に、女性研究者の育成に係る支援策の充実及び女性研究者の採用数の増加に向けた取組を積極的に推進することを目的として企画されました。



第4回目となる今回は、元独立行政法人科学技術振興機構理事長・顧問を歴任されてきた東京都市大学学長の北澤宏一氏を講師としてお招きし、「まず参加すること、継続すること、そのためのしかけ」と題してご講演いただきました。

セミナーでは、まず初めに学長から、「最終年度である今年度は、事業申請書に掲げた女性研究者在職比率の目標値である16%に達していないのが現状である。大学運営における女性研究者育成の意義や積極的な男女共同参画を推進するためにも、各部署の皆様にはご理解とご協力をいただきたい」と挨拶がありました。続いて、講師の北澤氏から、大学における男女共同参画の推進とは、憲法によって守られた基本的人権であり、その社会的不平等を是正するための積極的措置(ポジティブ・アクション)をとることは、男女共同参画社会基本法(1999年制定)によって合法的に認められていることが指摘されました。男女共同参画基本計画によって定められた2020年までに各分野で指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度にするという目標を示し、国立大学である琉球大学もこの目標値を達成しなければならないと指摘されました。そのための積極的措置の方法として、クォータ制、ゴール・アンド・タイムテーブル方式(目標値の設定)、基盤整備推進方式(保育施設等の環境整備)、アワード方式(人事ポストや研究費、学科配分予算への配慮)の事例を紹介されました。

質疑応答では、会場より「男女共同参画推進は良いといった精神論ではなく、ポジティブ・アクションが憲法と法律で認められているならば、本学も各学部や学科がポストを抛出して、学長裁量ポストをつくり、雇用を進めるといふしかけについて検討しても良いのではないか」と意見が出ました。その一方、ある時期になると女性が仕事と家庭との両立に直面し、大学を去っていくことも多い、もっと女性の側から積極的に大学運営に関わるなど女性の意識改革も必要だという声もありました。これらの質問を受け、北澤氏より「基本的人権を守るために両立支援や積極的措置などのコストがかかることは当然と受け止めている。政府の掲げた2020年までに指導的地位に女性が占める割合を30%程度にするという目標値を達成させることは琉球大学にも課されており、その目標値達成のためのしくみを大学運営として策定しなければならない状況にある」と述べられました。



■北澤宏一氏におかれましては、平成26年9月26日にご逝去されました。生前の御功績を偲び、ここに謹んで哀悼の意を表します。

夏休み学童保育を実施しました!

平成26年7月28日(月)から8月1日(金)の5日間、昨年に引き続き、教職員や学生の児童(小学生)を対象に夏休み学童保育を実施しました。今年も、昨年同様に募集定員を上回る申し込みがあり、学内における子育て支援のニーズの高さをあらためて実感しました。期間中は、保育士4名を常時配置し、学生ボランティアの協力も得ながら、20名の児童(保護者15名)を受け入れました。体験プログラムでは、本学の大学院学生による環境教育や農学部放牧地にて研究室協力による与那国馬などの動物観察、「昔の沖縄のくらしを知ろう!」(沖縄県立埋蔵文化センター)などのワークショップを開催しました。また、今年度は沖縄科学技術大学院大学(OIST)と連携し、OISTの学童保育所(Tedako nursery)との交流会を2日間にわたり実施しました。

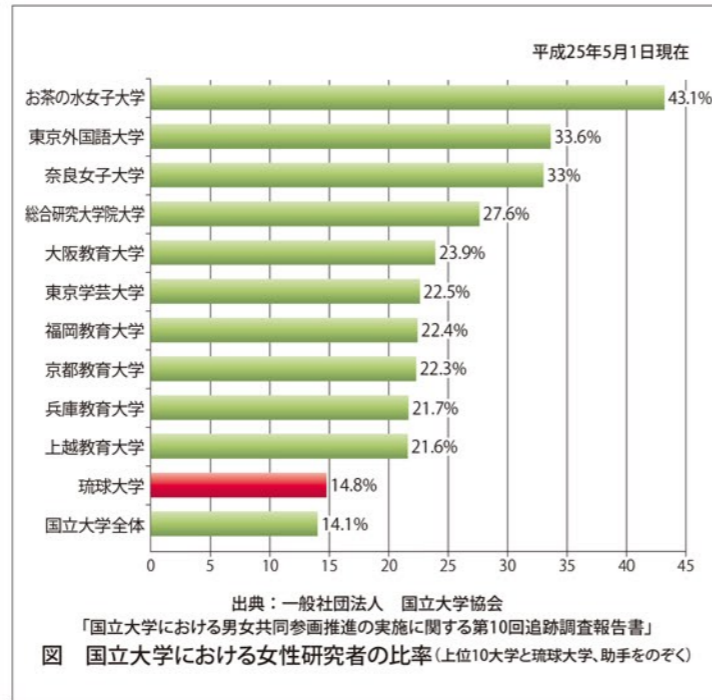
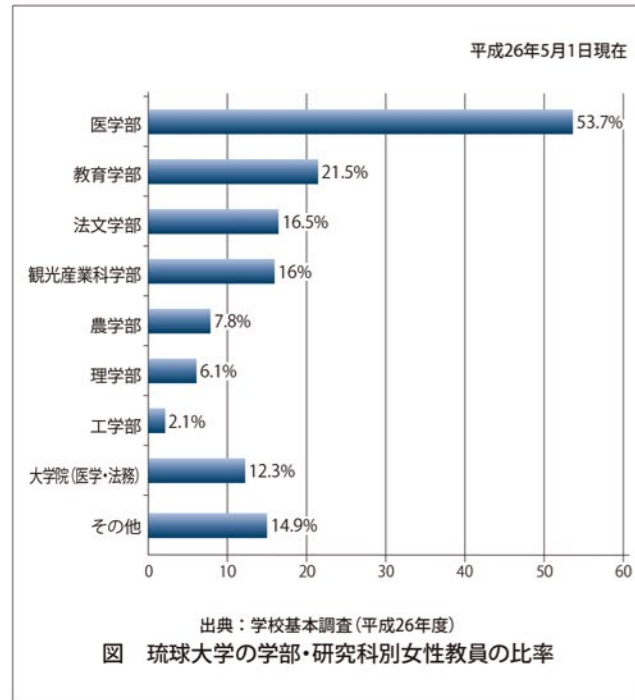
実施後の保護者アンケートでは、「学内なので、送迎の時間を気にせず安心して仕事に集中できた」、「OISTの子どもたちと交流したり、馬やヤギを見学したりと、普段体験できないことができたので、子どもが楽しんでた」、「来年もこのような学童保育があれば参加したい」という声がありました。しかし一方で、「開所や閉所時間を長くしてほしい」、「実施期間を長くしてほしい」、「利用者数を増やしてほしい」などの意見がありました。今後も、このような子育て支援を大学全体の取組として広げていきたいと考えています。



なぜ、今、女性研究者を積極的に採用？



ご存じですか、あなたの学部の女性教員比率？！



平成25年度の学校基本調査によると、琉球大学全体の女性教員の比率は14.8%と国立大学全体の平均値である14.1%を若干上回っているものの、86ある国立大学のうち51位となっています。今年5月1日現在のデータから、本学では特に自然科学系分野(工学部と理学部、農学部)における女性教員の比率が10%以下と極めて低いことがわかります。

ポジティブアクション Q & A

Q なぜ、女性研究者の在職比率を上げなくてはいけないのですか？

A 2013年に世界経済フォーラム(World Economic Forum)が発表したジェンダー・ギャップ指数(Gender Gap Index:GGI)によると、日本は136か国中105位であり、先進国の中でも著しく低い順位となっています。このような社会的な男女格差を是正するため、政府は第4期科学技術基本計画の中で、平成27年度末までに達成すべき自然科学系分野における女性研究者の在職比率として理学系20%、工学系15%、農学系30%という目標値を定めています。(第4期科学技術基本計画、平成23年8月19日閣議決定)

Q どうすれば、女性の在職比率を増やすことができるのでしょうか？

A 優秀な人材を確保するためには、1)女性を積極的に採用しようとする男女共同参画意識の向上、2)子育てや介護等のライフイベントとの両立ができるための環境整備、3)女性限定公募枠の設定等の積極的な方策が望まれます。

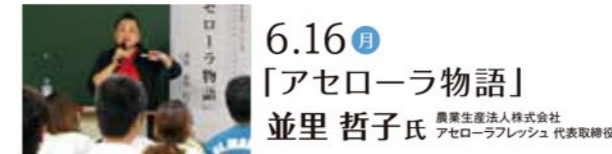
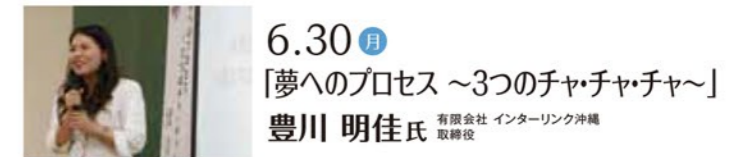
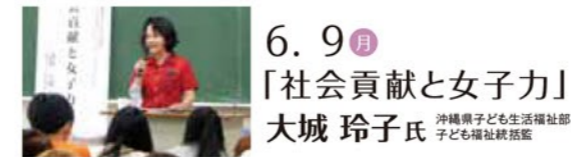
Q 女性を優遇する取組を行うことは、法律違反になりませんか？

A 男女雇用機会均等法によって、社会的・構造的な差別によって、現在不利益をこうむっている集団(女性や人種的マイノリティー等)に対して、一定の範囲で特別な機会を提供すること等により、実質的な機会均等を実現することを目的とした、暫定的な措置をとることは、法的に認められています(男女雇用機会均等法第8条)。

2014年 6月 8月の主な活動報告

キャリアデザインフォーラム開催報告

うない研究者支援センターは「ちゅら島の未来を創る知の津梁(かけ橋)」事業(COC地知)の拠点整備事業の一環として、沖縄県内の行政や地元企業で活躍する女性リーダーをお招きし、「社会」を動かすうないの力」をテーマに「キャリアデザインフォーラム 2014」を開催しました。どの回も、第一線で生き生きと活躍される女性リーダーが様々な葛藤を抱えながらも、誠実に目の前の仕事に向き合い続けてきた経験が語られ、会場からも多くの質問が出るなど盛況な会となりました。参加者からは、「講師の方のように、社会貢献できる人材になれるよう頑張りたい」「明確な自分自身の将来のビジョンを持ちたいと思った」といった声がありました。7月15日には、特別講演の講師としてお招きしたマラヤ大学医学部長のWah Yun LOW先生と男女共同参画室員との意見交換会を実施しました。



サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ



2014年7月12日(土)、八重山地域に在住する女子中学生を対象に理系の分野を身近に感じてもらい、将来のキャリアプランを考える際の参考となるよう、琉球大学と沖縄科学技術大学院大学(OIST)の主催による「サイエンスプロジェクトfor琉球ガールズ」を石垣市商工会館で開催しました。琉球大学とOISTの紹介や小西照子准教授(うない研究者支援センター長)による講演「モズクが地球を救う」、OIST研究員によるスマートフォンを使ったロボット紹介を行いました。その後、琉球大学農学部女子学生と中学生による交流会を行いました。

「山崎直子さんと語ろう! ~夢をつなぐ生き方~」意見交換会に参加しました!

2014年8月2日(土)、沖縄科学技術大学院大学(OIST)にて元宇宙飛行士の山崎直子さんを囲み、「夢をつなぐ生き方」をテーマとした意見交換会が開催されました。本学からパネリストとして喜納育江男女共同参画室長と小西照子うない研究者支援センター長、農学部4年生の上原蓮美さん、理工学研究科博士後期課程のファビエン・ズリアディ・クエンズリさんが登壇しました。

意見交換会を前に、山崎直子さんが宇宙飛行士として選ばれてから実際に宇宙へいくまでの11年間の訓練の中で、どのように職場や家族と向き合いながら、「宇宙へ行く」という小さな頃からの夢をつないできたのかをスライドと共にお話がありました。続いて、浦添市消防士として初めて男性で育休をとった平野聡太郎さんの話題提供の後、OISTと琉球大からのパネリストによって、夢をつなぐ生き方とその実現方法について意見交換をおこないました。熱帯性魚類の研究拠点として沖縄に憧れて本学の博士課程に進学したというスイス出身のファビエンさんは、「この春に娘を授かり、小さな子どもを抱えながら研究を続ける事は大変ではあるが、人生の目標は常に変わり続けると思う。大きなゴールと、毎日の生活の中でおこる小さなオプションとのバランスをとることが大切だ」とした述べた上で、「誰もが自分自身のやりたいと思う夢へ向かって努力できるよう、琉球大学にも託児所など子育てをサポートを充実させてほしい」と指摘しました。専門分野や職種、国籍を越えて、夢をつなぐための方法や組織の支援策について率直に意見を交換した有益な会となりました。



写真提供: OIST